

CONTENTS	
住吉区 オンライン子育てサロンで 笑顔あふれる再会	1 2
港区 障がい者の日常を描いたDVD 『夢をつかめ』を製作しました	3
地域の力でワクチン予約をサポート	4 5
過去と未来をつなぐ 社協のこれまでとこれから	6
高齢者食事サービス 時代は変われど、活動は続く	7
はじめまして！こんにちは！NPO法人のご紹介 NPO法人 CLACK	8

大阪の 社会福祉

2021.7

794

The social welfare
in OSAKA



社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



笑顔であふれた“オンライン版”子育てサロンながい

住吉区

オンライン子育てサロンで 笑顔あふれる再会

「元気なら手を振って〜！」
その声に応えて手を振る親子
の姿がモニターに映ると、配信
拠点の住吉区在宅サービスセン
ターでは歓声が上がりました。
約半年ぶりの「子育てサロン」な

がい」が、6月3日、初めてオ
ンラインで開催されました。こ
の日を心待ちにしていたのは、
参加した親子だけではなく、サ
ロンを運営するボランティアも
同じでした。（2面へ続く）

HB

こんなことがあるのだと驚いた。多くの人が何回電話してもつながらないというワクチン予約。一回で予約センターにつながってしまっ
た▼競争して予約をするとい
うのは、その分だけ誰かの機
会を奪ってしまうと、先着順
の予約には否定的だったのだ
が、海外旅行をしたいという
誘惑に負けてしまった▼野球
ファンでない人には申し訳な
いが、暗く辛いコロナ禍の毎
日、大リーグ・エンジェルス
の大谷の活躍にこそ癒され、
何とか現地で彼の雄姿を見
たいと思った▼かつてイチ
ローがマリナーズで活躍して
いたころ、一度だけシアトル
まで見に行ったことがある。
アメリカの球場は、ビールの
売り子やグラウンド整備のお
じさんまで歌ったり踊ったり、
楽しみながら仕事をしてい
て、野球がわからなくても球
場そのものがまるでショー。
それはそれは楽しかった▼注
射の痛いことも副反応の恐ろ
しさも、大谷の活躍の前では
些細なことに見える。人はこ
んな夢でも夢があれば、楽し
く前向きに生きていける。僕
のせいでワクチン接種が遅れ
た人に謝りながら、僕が行く
日まで、大谷の活躍が続くこ
とを祈るばかりだ。（石）

泣き声でもいいから

「泣き声でもいいから聞きたかった」。住吉区長居地域主任児童委員の八牟禮由紀代さんは、オンラインサロンを終えた後、そう話しました。

子育てサロンながいは、昨年12月から中止が続いていました。その間、八牟禮さんは、会

えないでいることもたちやお母さんたちのことが、ずっと気がかりでした。こどもたちは元気にしているかな、お母さんはストレスをためていないかな、こうして地域みんなで想っていることが伝わればいいな。緊急事態宣言下では中止も仕方ないかもしれない、けれど、あきらめたくない。オンラインでなら

やれないだらうか？

八牟禮さんがそんな気持ちで相談したのが、住吉区社協でした。

区社協にとっても初めてのオンライン配信の取組みでしたが、職員一丸となってサポート。また、想いに賛同し、区保健福祉センターや子ども・子育てプラザの職員も、喜んで協力してくれました。

離れていても心に寄り添うように

配信拠点となった区社協の会議室は、準備の時から笑顔にあふれていました。リハーサルを入念におこない、初めてとは思えないほどスムーズにプログラムが進んでいきます。歌や手あそび、絵本の読み聞かせ、普段のサロンと変わらぬ様子にこどもたちは大喜び。区保健福祉センターからは予防接種や熱中症とマスクの話、区役所保健福祉課・子育て相談室からは「子育てなんでも相談」の案内もあり、コロナ禍で外出を控えているお母さんたちの心に寄り添いました。

集まりにくい人のためにも

参加されたお母さんからは「とても楽しかったです。もつとやってほしい」「さっきまで家で遊んでいても、オンラインならすぐに参加できるので、気を遣わずにいられてよかったです」「ダンスや歌が大好きなので、楽しそうに手拍子していました」と、大好評。

参加したスタッフも、「コロナ禍で外出できない状況の中、画面を通じてでも参加者さんとお話できたのでうれしかったです」（住吉区保健福祉センター・子育て相談室の村上美紀さん）、「コロナ禍でも皆さんの顔が見れて良かったです。これからもいろいろな機会を通じてつながっていききたいです。いつでもご相談ください」（住吉区保健福祉センター・保健師の伊藤朱里さん）、「初めてのオンラインサロンだったので最初はドキドキでしたが、終わってみれば



大型絵本にこどもたちは夢中

ばとても楽しかったです」（住吉区子ども・子育てプラザの西笛真喜子さん）と、感想を話しました。

区社協の中嶋千晴事務局長は「集まりにくい親御さんたちのサロンのあり方も考えられるのでは」と、この取組みをふりかえりました。生活支援コーディネーターの中西美賀さんは、「長居がモデルになってくたさって、オンラインでもできるという経験を得られました。区内でのいろいろな活動の選択肢が増えれば」と話し、つながりを途切れさせないために、区社協は取り組んでいます。

障がい者の日常を描いたDVD

『夢をつかめ〜ハコちゃんの挑戦・パラスイマー大向優貴の挑戦〜』を製作

ふだんの姿を
いきいきと

港区社協では、今年3月、福祉教育のためのDVD『夢をつ

かめ』を製作しました。内容は、ひとり暮らしをしている2人の障がい者の日常を描いています。1人は、脳性まひがあり生活介護事業所「ゆうゆう美波

途」で働く箱崎良徳さん。もう1人は、頸椎損傷があるパラスイマー・大向優貴さんです。約20分の映像ですが、それぞれの人柄や暮らしの中の喜びの表情が、随所ににじみ出ています。

DVD製作過程について、区社協・地域支援担当の矢野杏佳さんと、ゆうゆう美波施設長の西田卓司さんにお話を聞きました。

アイマスクなど疑似体験がメイソンの福祉教育で、こどもたちは『大変そう』『障がいがあるのに』『どうやって生活できるの?』とできない部分はかりに注目していることが気になっていました。説明するより目で見てもらうのが一番伝わると思い、「みなとふれあい福祉のひろば」運営委員である西田さんをはじめ、障がい者施設の方々に意見をいただきながら、このタイミングでDVDを製作することになりました。

西田さんは、障がい者理解についてこう話します。「地域でラジオ体操や草取りをしている姿を見て、こどもにとって障がいのある人が身近にすることが当たり前になると、こどもから大人に伝わり、自然な形で理解が広がると思います」。

今後の活用に 思いを巡らせて

もう一人の出演者、大向さんの映像では、家の中でもさまざまなグッズを使って一人暮らしができる環境を整えたり、一人で車椅子から車に乗って運転したり、家の中と外での生活の工夫を感じ取ることができました。

矢野さんはこのDVDを「学校の福祉教育に広げていきたい。また、地域で活動する人たちにも見てほしいです」と、これからの活用に思いを巡らせています。

原点回帰することで、逆に新しい時代の福祉教育へ一歩踏み出せたDVD製作。具体的な活用場面など、今後、本誌を通じてお伝えします。

目で見てもらうのが 一番

DVD製作の背景には、コロナ禍が影響していました。昨年は、学校での福祉教育が例年の半分以下しか実施できず、福祉をテーマに平成15年以降、毎年開催してきた「みなとふれあい福祉のひろば」も中止となりました。すべてにストップがかかったことが、同イベントの当初からの目的である「障がい者理解」に「原点回帰」するきっかけになりました。

矢野さんは、「車椅子や

西田さんが、箱崎さんに動画出演を依頼すると、2つ返事でOK。「車椅子の生活にどんなサービスや工夫があれば暮らしやすいかを伝えたい」と意欲的に取り組み、打ち合わせの中で日頃の生活を伝えながら、シーンを作り上げていきました。

身構えなくてもいい

これらの撮影・編集を担ったのは、港区でコミュニティ誌を発行するMu-Cha(ムーチャ)。撮影をふりかえって、「障がい



区社協の矢野杏佳さん



大向優貴さん。インターフォン受話器にもひと工夫



箱崎良徳さん。大好きなTVも自由に観られます



ゆうゆう美波途の西田卓司さん

「地域の力でワクチン接種予約をサポート」

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が始まりました。報道、行政からのお知らせ、口コミなどでさまざまな情報が飛び交う中、「私はいつどうやって申し込めばいいの?」「身近に相談できる家族がいない」「電話はつながらないし、ネット申込みはわからない」など、高齢者の方々を中心として不安や混乱を覚える人は少なくありません。このような中、地域発の思いと区社協の後方支援が合わさり、身近なところで高齢者の方々の予約をサポートする動きも展開されています。

「ワクチンネット予約をきっかけに、地域でボランティア講師デビュー」

中央区



質問のある人のところに駆けつける姿が「まるでヒーローのよう」

中央区桃谷地域では、2～3月に開催された講座「スマホを勉強し、ボランティア講師になろう!」(本誌5月号に記事掲載)の受講者が、ボランティア講師としてデビューし、活動を始めています。

新型コロナウイルス感染症のワクチン予約をインターネットでも受け付けるとのニュースが流れた時、「どうやって予約するのか分からず、不安に思っている人がいるに違いない」と、同連合自治会長の原田壽幸^{ひさゆき}さんは考えました。そこで、すでに講座を修了し、活動のタイムミングを待っていたボランティアが「予約受付開始日にむけて、インターネット予約のやり方を事

前にお教える」という学習会のアイディアが浮かびました。その話を聞いた区社協もサポートし、2回の学習会を実現しました。

学習会は、説明動画を見た後、実際の予約時にあわてたり間違えたりしないように、自身のメールアドレスや接種券番号などを控えておく「インターネット予約時入力シート」をボランティアと一緒に記入。普段メールのやりとりはしていても、自身のアドレスは覚えていないし、どこを見ればいいのかわからない…。写真はよく撮るけれど、QRコードは読み取ることがない…。ボランティアはそんな「あるある」に寄り添

いながら、時には一緒に悩むこともあって、笑い声があがります。

ボランティアのみなさんに話を聞きました。「わからないことがあると誰でも不安。けれど、一緒に確認しながらやれば安心できる。もっとたくさんの方が来てくれたらうれしい」「他にも困ったままで、誰にも聞けない人がいるのでは。近所の人に『困ってない?不安なことはない?』と声をかけていきたい」など、生き生きとこの活動をされていることがわかります。

また、地域の参加者の方々は「年齢が近い人が教えてくれるので、聞きやすいし、わかる言葉で説明してくれる」「近所で習えるのは、気軽に来られるのでうれしい。この機会にできるようになろうと思っています」と高評価。

区社協・地域支援担当の中原沙江さんは「このワクチン予約のための事前学習会を機に、会館にはじめて来られた人もいました。この取組みができるのは、ボランティアのみなさんが、同じ地域の方の困りごとなが、我が事として捉えてくださっているからだと思います」と話しました。

ワクチン予約をきっかけに、ご近所同士ならではの助け合いの輪が広がっています。

予約代行・情報共有にタブレットをフル活用

住之江区

住之江区では、高齢者の接種予約が開始されて間もなく、区内3地域で、「見守りあったかネットコーディネート」（地域単位で配置され、平日は地域

会館に常駐）や地域のボランティア等によるワクチン接種の予約支援が動き出しました。区社協・区役所等も協力しながら、申込みの相談を受けて、か

かりつけ医への相談をすすめたり、タブレット端末（iPad）を活用して申込みを代行するなど、地域ごとに工夫を凝らして実施しています。

背景には、住之江区社協がタブレットを各地域に貸与し、活用



地域で定期発行するおたよりで周知し、事前に本人情報を預かって予約代行（太陽の町地域）

こうした動きは、5月28日（金）に開催された、区内14地域の見守りあったかネットコーディネート（オンライン開催）で報告。互いに刺激を受け、翌週の31日（月）には新たな地域にも広がり、各地域の会館では高齢者からの感謝の声が。予約支援終了後には、各地域をLINEのグループ通話でつなぎ、すぐさま情報共有。「タブレット便利やね」「地域の高齢者の方のために来週もがんばろう」と画面越しに声をかけ合いました。こうした取組みの



会館では予約を受付（平林地域）



終了後には他地域と情報交換。「22人の予約が取れました」

.....
ワクチン接種が徐々に進み、安心感を覚える人が増える一方で、本人の健康状態や考えにより「接種しない人」「見合わせる人」もいます。接種は任意であり、自らの意志で判断するものとされています。身近な人を気にかける、困っていないかと手を差し伸べる…その気持ちとともに、接種有無やその理由を無理に聞き出さない、接種を強制しない、そして、知らず知らずのうちであっても接種していない人を差別・排除してしまうことがないように心に留めておく必要があります。

を支援してきた経過がありました。これは、昨年度の「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を契機として、区社協・地域間の連絡体制の強化、地域におけるICT活用をねらいとして取り組まれてきたものです（本誌でも令和3年1月号、4月号に記事掲載）。
日頃接する高齢者の不安や困りごとに対する「ほっとけない」「今できることを」という気持ち。そして、これまで整備してきたタブレットの「使い時だ」「活用の幅がもっと広がるかも」という思いが重なり、取組みが加速しています。

市社協 過去と未来をつなぐ 社協のこれまでとこれから

市社協は、昭和26年（1951年）5月に設立、令和3年（2021年）設立70周年を迎えました。

70年の間に、社会福祉を取り巻く情勢や人々の暮らしは変化を続け、同時に、社協の事業や役割も変化してきました。近年では、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業や生活困窮者自立支援事業などの新たな事業の受託や、こども食堂等こどもの居場所活動といった新しい取組みも生まれました。またこの間、大阪が被災した地震や台風被害があり、そして今現在も、新型コロナウイルス感染症の流行という、かつて経験したことのない状況下にあります。

その中で、地域福祉活動や社協活動は、どのように実践し続けられてきたのか。歴史をたどることで学びや気づきがあり、そこにこれから先の姿を見出すことができるのではないのでしょうか。さらには、それを未来の地域福祉活動者や社協職員にバトンパスしていきたいと考えます。

そんな過去と未来をつなぐた



10年前（平成23年7月号）の本誌からの一枚（東北へのボランティアバス）

めに、60周年以降の約10年を中心にふりかえり、これからの未来の社協を見通すコーナー「60→70（ロクゼロカラナゼロ）」を立ちあげ、平成23年（2011年）の60周年から今年70周年のあいだで、変わったこと、変わらないうこと、積み上げてきたもの、新しく生まれたものなどを追っていきます。

読者のみなさんも「そう

やったなあ」と自身の経験をふりかえったり、「そうやっ

H23(2011)年からR3(2021)年の主な出来事

R3 [70]	R2 [69]	H30 [67]	H29 [66]	H27 [64]	H25 [62]	H24 [61]	H23 [60]
○「生活困窮者自立支援事業」開始 ○「生活支援体制整備事業」全区展開 ○こども食堂や学習支援などのこどもの居場所づくり活動が広がりをみせる ○大阪北部地震（6月）、西日本豪雨災害（7月）、台風第21号（9月）で大阪も被災 ○新型コロナウイルス感染症流行 ○コロナの影響により多くの地域福祉活動が中止や形態変更となる ○地域福祉活動・会議でもオンラインツールの活用が進む	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化	○「生活困窮者自立支援事業」開始 ○「生活支援体制整備事業」全区展開 ○こども食堂や学習支援などのこどもの居場所づくり活動が広がりをみせる ○大阪北部地震（6月）、西日本豪雨災害（7月）、台風第21号（9月）で大阪も被災 ○新型コロナウイルス感染症流行 ○コロナの影響により多くの地域福祉活動が中止や形態変更となる ○地域福祉活動・会議でもオンラインツールの活用が進む	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化	○東日本大震災の復興支援 ○大阪市政改革 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止 ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化

市社協 大阪発「つながる方法」 全国へ発信

市社協が令和2年度に作成した冊子「集まれなくてもつながる方法」と、更新版の「コロナの中でもつながる方法」。全国各地から多数の反響をいただき、6月1日からは「未来の豊かな」つながり」のための全国アクション」（全社協等11団体が主催）ホームページで紹介動画が公開されているほか、全社協が6月に発行した実践事例集でも取りあげられています（同

事例集には天王寺区社協・淀川区社協も掲載）。また6月13日には、日本地域福祉学会・第35回大会の自由研究発表で「コロナ禍での社会福祉協議会による手引きを活用した地域福祉活動の支援に関する実践研究」を報告。コロナ禍での実践研究はまだ少ない中、スピード感をもって作成・発信・評価・改善のサイクルを繰り返したことを評するコメントが寄せられました。

「つながる方法」は、大阪市内で地域福祉活動に取り組む皆さんの「つながりを絶やさな

い」「何とかしてつながり続ける」実践から生まれたものです。市社協では、全国規模の発信と交流の機会を、大阪での次なる実践へと活かしてい

「コロナの中でもつながる方法」関連情報

- 本会以外の媒体・学会等での掲載・発信について
- 日本地域福祉学会 第35回大会 自由研究発表「コロナ禍での社会福祉協議会による手引きを活用した地域福祉活動の支援に関する実践研究」（2021.6.13）
- 未来の豊かな「つながり」のための全国アクション＜実践動画紹介＞「ガイドライン『コロナの中でもつながる方法』を活用した、区社協、地域活動団体の活動再開支援」（2021.6.1）

「コロナの中でもつながる方法」を活用した区社協、地域活動団体の活動再開支援

大阪市社会福祉協議会

動画や学会発表のスライド資料等は市社協HP「お知らせ」記事から <https://www.osaka-sishakyo.jp/20200728/>

平成25年3月



ボランティア研修会に24区から778人が参加

令和2年度



コロナ禍の食事サービス
左上：令和2年4月号（東成区）
右上：7月号（港区）下：8月号（港区）

活動が始まったところもあるそうです。活動が流動的な今、実は転換期の真っ只中なのかもしれません。ここで選ぶ道が、それぞれの地域の「アフターコロナの食サ」へとつながっていくのでしよう。

平成25年3月5日、大阪市中央公会堂で「大阪市高齢者食事サービスボランティア研修会」が開催されました。大阪市の高齢者食事サービス（ふれあい型）は、全国に先駆けて昭和47年から始まった活動ですが、平成24年度の市政改革プランで見直し（区ごとに再構築）となり、これが市域で最後の研修会となりました。

この日は、竹村安子さん（大



このコーナーでは、市社協設立70周年を記念して、60周年（平成23年度）から70周年（令和3年度）の10年間について、テーマを掲げてふりかえり、今後を展望します。

高齢者食事サービス 時代は変われど、活動は続く

阪市立大学非常勤講師※当時）の講演に続き、港区八幡屋地域、浪速区日東地域、東成区東中本地域が活動を報告。竹村さんは「活動を取り巻く状況は厳しいけれど、是非今までのつながりを大切にし、活動を続けていってほしい」とエールを送り、参加者からは「やる気をなくしかけていたが思いを新たにしたい」との感想も寄せられました。

それから8年。

食事はサービス、通称「食サ」は、住民同士の見守りやふれあいを生み出す活動として継続されてきました。

令和2年以降、コロナ禍でストップしたままの地域もあります。大きな打撃を受けていますが、「配食を絶えず継続」「会食から配食に切替え」「感染対策を講じて会食を実施」など、ボランティアの底力を感じさせる活動も。その力の源は「そこに楽しみに待っていてくれる人（〇〇さん）がいるから」。補助金制度や生活様式が変わっても、その思いは変わりません。

また、これまで食事サービスがなかった地域で、コロナ禍で新たに、「月1回、配食・テイクアウトを組み合わせて実施し、そのまま会館での食事も可能」という形で活動が始まったところもあるそうです。

風をよむ

コロナ禍の災害リスクと防災

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 准教授 野村 恭代

日本は災害大国である。

コロナ禍においては、災害発生時のリスクに加え、感染症リスクへの対策も同時並行で進めなければならない。このような状況下において、まずは防災を「意識すること」自体がとても大切である。

災害時に支援を要する人も

「もしも災害が発生したら地域や生活はどのような状態になるのか」「避難所での感染症対策として具体的には何が必要か」などをイメージすることから始めることが、防災への意識を高めることにつながる。

政府はこの度、高齢者や障害者等が福祉避難所へ直接避難できるしくみを本格導入する方針を固めた。今年度中にも福祉避難所の運営指針を改正する見込みである。今国会に提出された災害対策基本法改正案では、支援を要する高齢者等一人ひとりについて、具体的な避難手段を盛り込んだ個別計画作成を市町村の努力義務とする規定が盛り込まれている。今後、高齢者等が

どの福祉避難所に行くかを事前に想定する新方式の導入が各自治体で始まることになる。

災害時に支援を要する人もそうでない人も、自分の命は自分で守る、自分のことは自分で助けるという姿勢や意識を持ち続けることが防災の基本となる。自然災害の多くは、ある日突然に発生する。たとえ防災を学んでいたとしても、実際に災害が発生した際には混乱状態になることが想定される。そのようなときには、まずは自分を助けることを最優先に考え行動することが、自分の身を守り、そして大切な人の命を守ることにつながる。加えて、災害や感染症を平時から自分のことに引き寄せて考えてみるのが大切である。災害をより身近な「自分ごと」と認識し、防災を考えるきっかけを意識的に作ることが、災害発生時に落ち着いて行動し冷静な判断をすることへの備えとなる。

はじめまして! こんにちは♪

NPO法人 CLACK

NPO法人のご紹介 ▷ 70 ◁

プログラミングの力で高校生の未来を変える

NPO法人CLACKでは、困難を抱える高校生に対し、無料で継続的なプログラミング学習支援とキャリア教育を提供しています。現在は新大阪で教室を開いており、今年中に堺でも教室を開始する予定です。

ひとくちに困難とは言っても、高校生が抱えている困難は様々です。家庭が生活困窮の状態にあり、何かに挑戦するお金がなかったり、パソコンや本など学習のために必要なものが揃えられなかったり。被虐待経験や引きこもりの経験、あるいは発達障がいを抱えている子もいます。そうした高校生たちは、地域の学校の先生方や住民の方々、ケースワーカーさんなど様々な人のご協力によってCLACKを知り、教室に参加します。

CLACKでは、WebサイトやWebアプリを作りあ

げる「達成感」から自分に自信を持ってもらえること、IT人材が不足する中で将来有用なスキルであること、という理由から、プログラミングスキルを身に付けてもらうことを軸にしています。また、キャリア教育として、様々な経歴の方に講演をしてもらったり、お金・情報収集・問題解決などに関するワークショップなどを提供したりしています。生きるための力をつけ、将来の選択肢を広げてもらうことが目的です。高校生を応援したい個人や企業からのご寄付、財団からのご支援によって授業は完全無料で提供され、教材や交通費、パソコンの支給も行っています。「エンジニアになるという夢がもてた」「信用できる大人と出会えた」「大学進学を考えられるようになった」という声が、高校生からたくさん生まれています。

私たちは、『生まれ育った環境に関係なく子どもが将来に希望を持ちワクワクして生きていける社会をつくる』というビジョンを掲げています。そのためにも、困難を抱える高校生が自分の力で未来を切り拓いていけるように、これからもプログラミング学習支援とキャリア教育の提供を続けていきます。

住 所：大阪市淀川区西島1-9-20
新中島ビル1階 西中藩
メールアドレス：info@clack.ne.jp
公式サイト：https://clackpc



《愛ちゃん賞》(優秀賞)・《希望くん賞》(奨励賞)

受賞者・受賞作品については、大阪府共同募金会のホームページに掲載いたします。

本会ホームページ

【赤い羽根おおさか】URL：<http://www.akaihane-osaka.or.jp>

【お問い合わせ先】

社会福祉法人大阪府共同募金会 担当：熊谷、内藤
〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 大阪社会福祉指導センター2階
TEL：06-6762-8717/FAX：06-6762-8718
Eメール：ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp
URL：<http://www.akaihane-osaka.or.jp/>

令和3年度赤い羽根共同募金

《赤い羽根賞》
(最優秀賞：採用作品)

作者
宮崎 きょうこ
(大阪府大学生)



記念バッジデザインは
大阪府内の大学生の作品に決定

10月1日から全国で実施する第75回赤い羽根共同募金運動で使用される記念バッジのデザインが決定しました。近畿6府県(滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県)共同募金会が合同で募集。219点の応募作品の中から、選考委員会の審査の結果、赤い羽根賞(最優秀賞：採用作品)1点、愛ちゃん賞(優秀賞)5点、希望くん賞(奨励賞)20点を決定いたしました。

採用されたデザインによって製作した記念バッジは、今年度の共同募金運動期間中に、共同募金に協力いただいた方へのお礼や、共同募金をPRするためなどに、近畿6府県を中心に広く活用されます。

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 住まいの保険 人の保険

www.ms-ins.com